



弊社が昨年施工させていただいた大規模木造建築のグランハート町田医療モールが**2016年10月にオープン**しました！！

「医療・福祉・生活が集まる複合施設」を目指し2016年1月から工事が進められ、大規模での木造施工は初めてでしたが、地域の皆様のご理解関係業者様の協力の下、無事に完成させる事が出来、本当にありがとうございました。

延床面積約900坪。木造建築では関東最大級の規模になります。構造部分に集成材を使用し柱の無い広い空間には特注の大梁が使われました。構造部に使用しているため、確認することはできませんが環境に優しい木を使った大規模の木造建築にもご期待下さい。



住宅用火災警報器 ~消防法施行後10年~

2006年6月に消防法が施行され、住宅用火災報知器の設置が義務付けられました。設置義務付けより10年、古くなると電子部品の故障や電池切れなどで、いざという時に火災を感知できなくなるため、とても危険です。設置から10年を目安に本体の交換をお願いします。また、設置から10年経過していないご家庭でも作動の確認をお願い致します。弊社が新築物件に取り付けている熱式タイプの住宅用火災警報器を例に作動のチェック方法とお手入れ方法を簡単ではありますがご説明させていただきますので、ご家庭の住宅用火災報知機のご確認をお願い致します。ご不明な点は弊社までご相談下さい。※メーカーによりお知らせ音等が異なる場合がありますので今一度取扱説明書をご一読をお願いします。

鳴る → 正常に作動しています。定期的にご確認をお願いします。

鳴らない → 電池切れ又は故障です。本体の交換をお勧めします。

センサー部分に埃や油が付着していると感度が落ち正常に作動しなくなりますので、お手入れをお願い致します

小さく製造年が明記されています。交換の目安にしてください

本体の側面に上の様に簡単な説明が書いてある商品もあります。この機種は「電池切れはピッ、故障はピッピッピッ」と鳴ると書かれています。ご自宅の火災警報器を確認してみてください。

お気軽にご相談ください！

作動確認方法

住宅用火災報知器 ※写真は熱式タイプです。他に煙式等様々なタイプがあります。下の部分を押し「ピッ」と鳴ります。音が鳴らない場合は電池切れまたは、器具が故障しています。

この部分を押し「ピッ」となります。他にはボタンタイプもあります

編集後記

日増しに暖かくなり、春の風が心地よい季節となりました。昨年「39thありがとうフェア」を開催し、多くのお客様にご参加頂き、誠にありがとうございました。今年は創立40周年を迎え、40年という道のりを歩み続ける事ができたのも、ひとえに皆様のご支援・ご愛顧の賜物でございます。今後とも三和住建を宜しくお願い致します。

◆新築（分譲・注文）・リフォーム
株式会社三和住建 TEL**042-794-3030**

◆リフォーム専門
三和株式会社 TEL**042-794-0320**

〒194-0035
東京都町田市忠生3丁目7番地15

さんわ四季報 春号 2017年 vol.61

さんわ四季報をご愛読くださり、いつもありがとうございます。裏面の「40周年対談」にございますように、皆様に支えられ、おかげ様で弊社も40年を迎える事ができました。誠にありがとうございます。今、建築は「パリ協定」の、世界気温上昇2℃未満に抑える目標に向け「長期温室効果ガス低排出発展戦略」に関し高い削減目標「2030年度までに2013年度比26%減」を提出しており、さらに今後5年毎に新しい目標が義務付けられているそうです。2020年より本格的にZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）が普及し、2030年には住みながらCO2を計算上マイナスにできるLCCM（ライフサイクルカーボンマイナス）等と変化していくでしょう。今生きている私たちが経験、直接聞いたことがないような自然災害への対応や、建築のIoT化、ドローン宅配など、近未来と自然とエネルギーと、目が廻るくらい変化していくのだと思います。地球人、東京町生まれとして皆様の期待にどこまでお答え出来るか、一つ一つ精進して参りたいと思います。今後どうぞ宜しくお願い致します。本当にありがとうございます。

志水 哲也 拝

創業から40年 今日までの家づくりに対する取り組み

1973	オイルショック		
1978	バブル崩壊	創業当時の北リノについては 本紙裏面 をぜひご覧下さい！	設立当時の三和住建
1993			当時社長（現会長）志水勇祐、脳内出血で倒れる。半身不随となるも、わずか4ヶ月で現場復帰。その後、3年続けてモデルハウスを展開しました。
1995	阪神・淡路大震災		いわゆる「魔法陣のような家」健康の継承には温熱環境が大切であるとの信念から高気密・高断熱のSW工法をいち早く取り入れ、世に問いました。三和住建の原点です。
1996	長野オリンピック開催		
1997	京都議定書 採択		会長自ら障害者となったことで得られた体験を家づくりに役立てました。
2001	ITバブル崩壊		
2005	京都議定書 発効		
2007			「人と環境にやさしい家づくり」をモットーに高気密・高断熱住宅の普及とバリアフリー住宅に情熱を注いでいく
2010	リーマン・ショック		
2011	東日本大震災		
2014	消費税8%に増税		

ローコスト住宅モデルハウス

SW工法モデルハウス

バリアフリーモデルハウス

性能評価住宅モデルハウス「高Q館」

ISO9001 認証取得

省エネ型モデルハウス「パシーフ」

環境配慮型モデルハウス「りらく」

LCCM 実験棟

企画型商品住宅モデルハウス「TRETTIO」

昭和55年基準 旧省エネ基準

平成4年基準 新省エネ基準

平成11年基準 次世代省エネ基準

平成25年基準 改正省エネ基準

認定低炭素住宅を標準的に提供し始める

リフォームショップ「三和（株）」設立

ZEHへの取り組みを本格化

お陰様で40周年対談特別企画

三和住建四十周年の歩みを振り返り

今回のお施主様訪問記は、創業当時よりお世話になってる浅沼重臣様、深沢勲様と創業者である志水勇祐（会長）と志水哲也（社長）による対談をさせて頂きました。弊社従業員である河合（以下Kと表示）がインタビューを交えながらの対談形式で、四十年を振り返らせて頂きました。

K 四十年の歴史を振り返り創業当時の事を お聞かせ下さい

会長 今から五十五年以上前、当時はオイルショックの時に、資源がない時代でした。長野から材木を積んで町田に出て来て土地を探していたんです。その時に浅沼さんのお父さんから「土地を貸すよ」と言って頂き、広東商店という材木屋を立ち上げて、それから建築請負に発展したんです。



浅沼重臣様

浅沼様 親父から聞いた話では畑をやっていたら、「土地を探しているの、売ってくれる所はないですか」と言われて、上宿バス停前（町田街道沿い）が当時は松林で、そこなら空いているから、貸しますよという話でした。

K 広東商店は順調でしたか？

会長 私は営業として働いていて順調でしたが、十五年位経った、昭和五十二年十一月に広東商店にリストラされたんです。その時「そんなのんでもない話だよ。仕事がもらえるのは勇ちゃんのお陰なのに」と浅沼さんのお父さんが私をかばってくれました。浅沼さんの土地に会社を建てさせて頂いたのが昭和五十三年二月。ここから三和住建が始まりました。
社長 その当時の事はよく覚えていません。設立当時、私が小学校四年生の頃でした。作業場は深沼様にお借りしていましたね。
深沼様 うちも広東さん時代に家を造ってもらって、その時の知り合いが「勇ちゃんなら絶対大丈夫」と太鼓判だったので貸したんです。
浅沼様 設立した時は何人だったの？
会長 私とかみさんの二人でした。
社長 当時はトタン張りの十五坪の平屋でしたよ。それから二階建になりましたね。

K 印象に残っている出来事がありますか？

浅沼様 一番印象に残っているのは、会長が倒れた時の事です。お孫さんが産まれる直前でお祝いの日も決まっています。その頃倒れられて病院にお見舞いに行ったら寝たきりだったから、びつくりしましたね。

これだけ回復して感心ですよ。厚木のリハビリの病院にお見舞いに行った時は「車いすから立つ」と、涙こぼしながら頑張っていましたよ。

K その頃の三和住建はどうでしたか？

社長 工事が五人、事務が一人、私と会長で、全員で八人です。会長が倒れた後、深沼様から今の家を建て替えるお仕事を頂きましたね。
深沼様 昔の家は陽が当たらずで、建て替える事になって、その時にSW工法（SWⅡスーパーウォール）の話がきましたね。
社長 SW工法を始めて、深沼様のお宅が三棟目だったかと思えます。
深沼様 私は古い人間で、昔ながらの一本の柱で造ってもらいたいと思っていました。

K SW工法にした決め手は何ですか？

深沼様 先にSW工法で家を建てた人から「凄くいいから」と勧められて、SW工法にしたんです。当時合板なんて信用できないと思っていました。でも「無垢は必ず隙間があくよ。木は暴れるからね」と言われて、そんなうまい話はないよ。なんて内心思っていましたけど、SW工法にして本当に良かったです。

社長 当時、「布団が軽くなったし、結露が無くなった」と深沼様のお母様におっしゃって頂いたのが、嬉しくて今でも思い出します。

K 会長が病に倒れてしまい、三和住建を どのように見ていましたか？

浅沼様 形の上で大きくなっていくのも分りましたし、非常に目立つようになりイメージは良かったですよ。
深沼様 会長が倒れられても、会社が大きくなるというのは、会長の信用度が高いと言う事ですよ。人の口には戸は立てられませんからね。

K 地域に密着して行くのに必要な事は？

社長 地域の方々には二百年も三百年もその土地の相続を繰り返しながら、行事だったり、お金や身体も使い代々地域に貢献されて、その方達のお陰で学校も出来、道も整備され、皆で街づくりをしてきたと思うんです。
その地域の方々やお客様の為、地域を良くしていく事が必要だと思います。いろいろなご縁を頂いてお仕事を頂き、感謝していますし、街が良くなると皆が良くなりますからね。



会長 志水勇祐

浅沼様 我々の思う地域密着は、地元のことこの地域と言えど誰だか分るんですよ。どこの誰か分からない人に大事な事を頼めないんです。



深沢勲様

会長 お世話になってるだけで、信用が増すのもお二人のおかげです。
深沼様 お世話したつもりもないし、逆にこちらもお助かっていますよ。一生に一度の家を建てるという大仕事の時は、必ずいるんなりに聞いたりするものです。そんな時に信用度の高い工務店の名前が出るんですよ。そこが三和住建さんの根本じゃないかと思うんです。今までの実績があるから、そのままそれに沿って行けば成長の一途をたどるのでないですか。

K 今後の三和住建に期待する事などを お聞かせ下さい

浅沼様 すぐに駆けつけられる小回りが利く会社として地域に密着してやったらいいと思いますよ。

会長 建築は大きくする時は楽だけど維持していくのは大変だね。社長を交代して、若い者がやる方が今は、お客様の為になっていると思います。

社長 三十年以上続いている建築会社は少ないですね。

深沼様 社長だけに信用があっても周りにいる従業員さんの信用もないと会社は伸びないですよ。従業員さんや周りの人がいい加減な事をやっているのは、いくら社長に信用度があっても、皆がぶら下がっているのは社長一人では出来ませんから。従業員さんの努力が会社の信用を高めると思いますよ。

浅沼様 信用したらとことん信用するけど、それまでが本当に大変だったと思いますよ。会長のお人柄がやっぱり良かったからでしょうね。
会長 三十年四十年とお世話になり本当にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い致します。



会長：志水勇祐 浅沼重臣様 深沢勲様 社長：志水哲也

～インタビュー（河合）よりひとこと～

40年間、沢山のお客様や地域の皆様に支えられている事を改めて実感致しました。心より感謝申し上げます。社員一人ひとりが責任を持ち、家づくりや街造りと、ますます皆様のお役に立てるよう精進して参りたいと思います。今後とも末永いお付き合いをどうぞよろしくお願い致します。